

「書くこと」における表現力を高める指導方法の工夫

～Mappingの活用を通して～

那覇市立首里中学校 教諭 喜屋武真弓

I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領（外国語編）では、教科の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」と示している。

本市は、文部科学省より研究開発学校の指定を受け、小学校に英語が導入されて5年目を迎える。小学校では、「聞く」「話す」の音声を中心とした指導が展開されており、児童は、英語活動を通して、楽しみながら英語に慣れ親しんでいる。また、中学校では、英語学習の初期における導入がスムーズに行われるようになり、小中連携の成果も徐々に表れてきている。中学校においても、小学校で行われてきた音声重視の活動を生かした指導を行っている。生徒は、英語を聞いたり、話したりすることに抵抗が無く、「聞く」「話す」力がついてきている。本年度4月に、本研究所が2年生を対象に行った目標標準学力検査(CRT)の本校の結果をみると、期待正答率に対する到達率が「聞く」領域は100%、「読む」領域は75%、「書く」領域は33%であった。「聞く」領域では成果が高いが、「書く」領域においては課題が残った。

これまでの「書くこと」における生徒の実態を振り返ってみると、「単語のスペルが書けない」、「語順がわからない」、「表現の仕方がわからない」などの基礎の部分でのつまずきが多い。語彙や文法がわからないため、まとまった文を書こうとしても、与えられた例文の写しや単語の置き換え程度にとどまっている。

また、指導法を振り返ってみると、「聞く」「話す」の音声によるコミュニケーション活動に重点をおき、「書くこと」の学習活動が全体的に少なかったと感じる。語彙の指導においても、発音と意味の確認にとどまり、文型指導では、語順を意識させるような取り組みが少なかった。また、英作文においては、ほとんどが教科書の“Writing”の単位の中で、例文を参考に文を書かせる指導が主であった。以上のことから、他の3領域の指導とバランスをとった、「書くこと」における指導方法を工夫する必要があると考えた。

そこで指導の手立てとして、継続的な単語書き取り練習や word order（語順並べ替え）等の語彙・文型指導の工夫、さらに、Mappingを活用して、まとまった文を書く指導を工夫することで、文を書く力を伸ばしたい。英作文が「楽しい」と思える活動を工夫することで、「書きたい」という意欲を起こさせ、「書く」ことに慣れ、自分の思いを伝える文を「書く」表現力をつけたい。ペアや個人での活動を効果的に取り入れながら学習を進め、語彙・文型・英作文の指導方法の工夫を通して、「書くこと」における表現力を高めたいと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

Mappingを活用し、まとまった文を書く学習を通して、「書くこと」における英語の表現力を高める。

Ⅲ 研究仮説

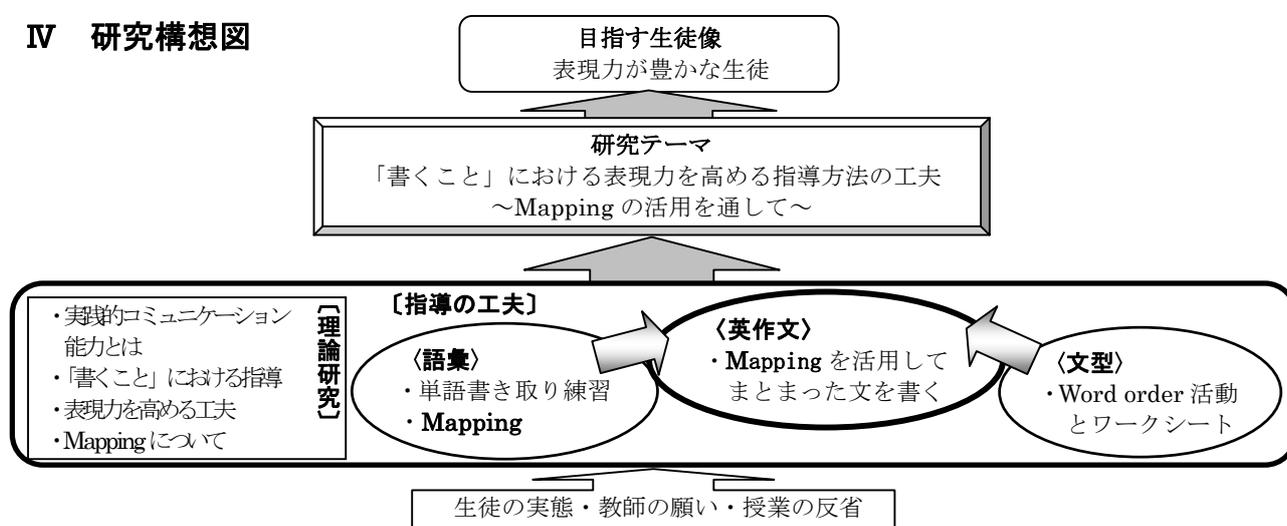
1 基本仮説

自由英作文の場面において、Mapping を活用することで情報が豊富になり、表現力も高まるであろう。

2 作業仮説

- (1) 語彙学習の場面において、語彙の一覧表を活用してのドリル学習と、ペアで Mapping をすることで、語彙力がつくだろう。
- (2) 文法事項の確認場面において、Word order (語順並べ替え) のペア活動とワークシートの工夫をすることで、基本的な英文の語順を覚えることができるだろう。
- (3) 自由英作文の場面において、Mapping を活用して文を書くことで、まとまった文が書きやすくなり、発想も広がり表現力も高まるだろう。

Ⅳ 研究構想図



Ⅴ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力について

(1) 実践的コミュニケーション能力とは

実践的コミュニケーション能力について、中学校学習指導要領 (外国語編) では「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」としている。コミュニケーションとは、自分の意図することや考えを相手に伝えたり、同時に相手の意向や思いを理解したりする相互の意志・感情の伝達や交流のことである。

『コミュニケーションのための4技能の指導』(伊東治己編著)によると、コミュニケーション能力の育成というと、聞くこと話すことの指導を重視しがちだが、読むこと書くことの指導も大切だとし、バランスの取れた4技能の指導の重要性を示唆している。

また、4技能の相互関係を、言語学的視点と心理学的視点の2つの視点から分類した、伊東の示す表を参考に、図1に図示した。これらの4つの技能は、それぞれ密接に関係し合っている。4つの技能を関連付けた活動を実践し、能力を高めることで、実践的コミュニケーション能力が高まると考える。

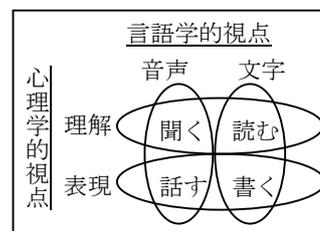


図1 4技能の相互関係

(2) 「書くこと」について

中学校学習指導要領(外国語編)の示す「書くこと」の具体的目標は、「書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。」である。

「書くこと」の指導法について、『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』(望月昭彦編著 久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司著)に、Raimes による6つの指導法が挙げられている。それらは、「制限作文から自由作文への段階的アプローチ」「フリーライティング・アプローチ」「パラグラフ・パタン・アプローチ」「文法・統語・構成アプローチ」「コミュニケーション・アプローチ」「プロセス・アプローチ」である。文法や文の構造を重視する方法や、読み手や書き手を意識した作文などのアプローチなどがある。しかし、実際に授業に取り入れるには、生徒の実態や習熟度によって、どの指導法が適切であるか見極めながら、指導計画を立てることが大切である。「書きたい」という思いを喚起させて、まとまった文を書くことに慣れさせることが大切ではないかと考える。

そこで、この6つの指導法の中から、「フリーライティング・アプローチ」を導入し、「書く」力をつけることに迫りたい。このアプローチで、文法などの多少の誤りを気にすることなく、文をたくさん書くことで、文を書くことに慣れ、自分の思いや考えを自由に書くことができるようにしたい。そうすることで、「自分の考えを伝える文を書く力」(=表現する力)を高めることにつながると考えるからである。

また、英文を書くには、語彙力と文法力は必須である。『言語活動を中心に基礎能力をつける英語指導法』(佐野・米山・松沢著)によると、語彙の定着(=永続記憶)は「長期記憶にある記憶のなかで、生々しく、感動的で、学習者に関わりのある記憶だけが永続記憶として定着する」としている。また指導法として、繰り返し学習を行い「できるだけ長期記憶にとどめ、永続記憶に転換する機会を多くする。」(佐野・他 1988) ことも1つの方法としてあげている。このことから、単語のドリル学習と Mapping で、語彙の習得を図りたい。

2 表現力を高める指導について

(1) 表現力を高める指導

実践的コミュニケーション能力を高めるためには、意思伝達をよりスムーズに正確に行うことができるように、表現力を高める必要がある。『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』(田中武夫・田中知聡著)によると、自己表現力とは、「自分の知っていることや考えていること、あるいは自分の気持ちを他者に表現する」と述べている。言語活動の中で、必然性、具体性、自己関連性、自由度の4つのポイントを高める指導の工夫が大切であるとしている。表1は、その指導の工夫として示された4つのポイントをまとめたものである。これらを参考に、誰かに伝えるという目的を持ち(必然性)、自分に関わりのある内容で考えや思いを入れながら(自己関連性)、具体的に(具体性)、自由に表現する(自由度)ことを指導に取り入れ、表現力を高めていきたい。

表1 表現力を高める指導の工夫

必然性	<ul style="list-style-type: none">・自然に表現してみたいと思うような場面・状況を設定する。・誰かにメッセージを伝えるという活動の目的を明確にする。
具体性	<ul style="list-style-type: none">・活動内容を具体的にイメージさせ、活動に取り組ませる。・持っている背景知識を活性化させて伝えたいメッセージを具体的に考えさせる。
自己関連性	<ul style="list-style-type: none">・自分自身のことや自分に関連した人物や事柄を活動内容として取り扱う。・英語以外の教科で学んだことや学校行事についての内容を取り入れる。・感情や考え、意見を取り入れる。
自由度	<ul style="list-style-type: none">・生徒自身の意志や判断によって主体的に表現させる部分を活動に取り入れる。・いくつかの選択肢の中から自分の判断で話題や内容を決めさせる。・教師が率先してパフォーマンスや作品に取り組み、具体例を生徒に示す。

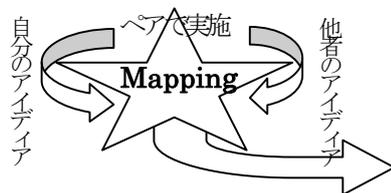
(2) Mapping について

トニー・ブザンは、『ザ・マインドマップ 脳の力を強化する思考技術』（トニー・ブザン、バリー・ブザン、神田昌典 [訳]）の中で、マインドマップを提唱している。マインドマップの定義は、「中心点から、連想的に思考を広げていく放射思考」であり、「脳の潜在能力を解き放つ鍵となる強力な視覚的手法」である。下記の4つが特徴としてあげられ、ルールに従ってキーワードをマッピングに書き出していくというやり方である。

- | | |
|--|-------------------|
| <p>a) 中心イメージを描くことにより、関心の対象を明確にする。</p> <p>b) 中心イメージから主要テーマを ^{ブランチ}枝 のように放射状に広げる。</p> <p>c) ブランチには関連する重要なイメージや重要な言葉をつなげる。</p> <p>d) あまり重要でないイメージや言葉も、より重要なものに付随する形で加える。
ブランチは、節をつなぐ形で伸ばす。</p> | (トニー・ブザン, 他 2005) |
|--|-------------------|

また、『記憶力 発想力が驚くほど高まるマインドマップ・ノート術』（ウィリアム・リード著）によると、マインドマップは、「コミュニケーション力を高めるツール」にもなり、「作文が書きやすく」、「自分の中にある情報を整理」することが可能である、と示している。

そこで、マインドマップの技術的なルールや、ワードの配置のルールの中から、次の3つに注目し、参考にしたいと考えた。1つ目に、単語と単語を関連づけてイメージし、発想を広げる。また、連想する単語の分類は、段階的に小さくしてイメージを整理する。2つ目は、色をつけて視覚的に強調する。色をつけることで脳が活性化し、連想や感覚に働きかけることが可能になる。3つ目は、楽しむということである。以上のような方法を取り入れ、独自の Mapping の仕方を工夫し、英作文活動に応用したい。Mapping を活用することで、図2のような学習効果が期待でき、さらに、ペアで実施することで、その効果は高まるものと考えられる。



【期待される学習効果⇒（表現力）】

- ① 発想が広がる。
- ② 書きたいことの整理ができる。
- ③ 語と語の関連から内容を深めることができる。
- ④ 語彙が増える。
- ⑤ 自己との関連で自由に文が書ける。

図2 Mapping によって期待される学習効果

3 「書くこと」の指導の工夫

(1) 語彙・語順の指導の工夫

① 語彙一覧表と記録用紙の作成

題材に関する語彙をまとめた一覧表を作成。毎時約5分の書き取り練習を実施する。語彙数を20語として無理なく覚えられるようにし、覚えた語にはチェックマークを入れられるようにする。練習後テストを実施して、点数を記録用紙のグラフに記入し、習得状況がわかりやすい形にすることで意欲を高める。



② 語順並べ替えカードとワークシートの工夫

紹介文で活用できそうな表現の文を、単語単位でカットする。ペアでカードを並べ替えて学び合いながら学習活動を行う（1文1分）。カードで語順を確認した後にワークシートを使って定着を図る。ワークシートは英語の語順で日本語訳を与えて、語順が理解しやすいようにする。

1. 私はあなたに写真を見せましょう。(will / you / the picture / show / I)

私は	見せましょう	あなたに	写真を
----	--------	------	-----

2. あなたはたくさん魚を見て楽しむことができます。(can / fish / many / enjoy / you / seeing)

あなたは	見て楽しむことができます	たくさん魚
------	--------------	-------

3. 私たちは北谷に行きたい。(want to / we / Chitan / to / go)

私たちは	行きたい	北谷へ
------	------	-----

Word order ワークシート

(2) Mapping の活用でまとまった文を書く指導の工夫

紹介文を書く課題で, Mapping を行い, それを活用してまとまった文を書く活動を行う。興味のある場所を設定することで, 生徒の「書きたい」と思う気持ちを起こさせる。

ステップ A (図 3) では, 10 分間ペアで Mapping を行う。キーワードとなる「場所」を中心に置き, イメージする単語を書きつなげていく。関連する単語がつながるので自然に内容が分類され, 整理される。また, 絵や色を付けることでイメージを広げ, 楽しみながら活動できるようにする。ペアで行うことで発想が豊かになり書く材料も豊富になる。

ステップ B (図 4) では, ステップ A で作成した Mapping を活用して個人で 15 分間紹介文を書く。キーワードから, 関連づけた連想の広がり of 1 語 1 語を使って文を書いていく。1 つの関連づけた連想の広がりを書き終わったら, キーワードへ戻り, 他の関連づけた連想の広がりへと話を発展させる。このように, Mapping に記された語彙を手がかりに, 自分の考えや思いを入れながら, 自由に書きたいことを書いていく。

ステップ A ペアで Mapping (10 分)

Mapping の書き方

- 紙を横長に使う。
- キーワードを中心に置き, 語の連鎖を広げる。
- 英語で書く。(ローマ字でもいいが, 文を書く時に辞書で調べて英語で記入する。)
- 語から語へ言葉のイメージを広げるように書く。(関連づけた連想の広がり)
- 語をできるだけたくさんつなげる。
- 絵や色でわかりやすくする。

Mapping の例

関係づけた連想の広がり

書く内容のポイント
名所/食物/有名なイベント/その他

Mapping を使って
英作文

☆指導の留意点

- 紹介したいと思う場所を設定する。【必然性】
- 紹介文を書き終わったら発表するという目的を明確にする。
- 持っている情報をたくさん引き出す。【具体性】
- 感情や意見を書き込む。・協力して活動する。

図 3 ステップ A ペアで Mapping

ステップ B 個人で紹介文を書く (15 分)

英作文 (紹介文) の書き方

- キーワードから広がった語を 1 語ずつ使って文を書く。
- 語のイメージを膨らませ, 内容を深めていくように文を続ける。
- 1 つの関連づけた連想の広がりを書き終わったら, キーワードに戻り, 次の関連づけた連想の広がりへと話を発展させる。

英作文 (紹介文) の例

I will show you the picture of Naha.
I live in Shuri.
Shuri castle is in Shuri.
It is
.....
We have some festivals in Naha.
Naha Hari is

☆指導の留意点

- 思っていることを自由に書く。【自由度】
- 感情や考えを入れた文を書く。【自己関連性】
- メッセージを伝える。(Mapping を提示しながら紹介文を発表する。)

図 4 ステップ B 個人で紹介文を書く

(3) 評価の工夫

表現力の高まりを計るために, 表 2 の評価のポイント(1)文の量, (2)文の膨らみ・広がり, (3)文法の 3 つを用いて, それぞれを 4 段階で評価する。

表 2 評価の観点

評価のポイント\採点	0	2	4	6
(1) 文の量	0 文	1~4 文	5~8 文	9 文以上
(2) 文の膨らみ・広がり	1~2 文	同じ表現の繰り返し/単文	関連のある内容の文を 3 文以上書いている	内容に深まりがあり, 具体的である
(3) 文法 (主語+動詞)	全文ミス	1~5 割正しい	6~9 割正しい	全文が正しい

VI 授業実践

1 題材名 九州を紹介しよう

○指導観

修学旅行を1ヶ月後に控え、興味関心が高まってきた九州の紹介を題材にすることで、「書きたい」という意欲を喚起させながら、まとまった文を書かせたい。Mappingの活用で発想を広げ、書く材料を豊富にし、その後、まとまった文を書く活動を行う。また、Mappingを活用しての英作文以外にも、単語の書き取り練習、文型理解のためのWord order学習を取り入れ、下記のような指導計画を6時間設定した。

2 題材の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペアで協力して活動に取り組もうとしている。 (Word order / Mapping) ②書いた紹介文を意欲的に発表しようとしている。	①英語で Mapping をすることができる。 ②Mapping の語彙を手がかりに文を作ることができる。 ③紹介したい場所についてまとまった文を書くことができる。	①友達の紹介文を聞き取ることができる。	①Word order 活動を通して語順を理解することができる。 ②紹介文を書くときに適切な表現や語彙を理解し、使うことができる。

3 指導計画

	目 標	言語活動				評価の観点				評価方法
		聞く	話す	読む	書く	関意	表現	理解	知識	
第1時	・単語テスト、語順並べ替えテストを実施し、自己の学習状況を知る。 ・Q-Aで既習表現の復習			Word order カード ゲーム	Word order				①	単語テスト 語順並べ替えテスト インタビュー
第2時	Mappingの仕方、活用方法を知る。	Q-A		Word order カード ゲーム	単語書き取り練習 Word order	①	① ☆			☆観察 Mapping シート
第3時	「行きたい場所について」のMappingを行い、紹介文を書く。	Q-A 書いた紹介文をみんなに読んで紹介する。			Mapping 紹介文		②		②	Mapping シート 紹介文
第4時	「那覇について」のMappingを行い、紹介文を書く。	書いた紹介文をみんなに読んで紹介する。		Word order カード ゲーム	単語書き取り練習 Word order Mapping 紹介文		③			紹介文
第5時 本時	「九州について」のMappingを行い、紹介文を書く。	Q-A 書いた紹介文をみんなに読んで紹介する。		Word order カード ゲーム	Word order Mapping 紹介文	② ☆	③			☆観察 Mapping シート 英作文 シート
第6時	単語テスト、語順並べ替えテストを実施し、自己の学習を振り返る。	Q-A		Word order カード ゲーム	単語書き取り練習 Word order	①				単語テスト 語順並べ替えテスト

4 本時の指導（5／6時限目）

(1) 本時の指導目標

- ①ペアで協力して **Word order** に取り組み、英文の構造を理解する。
- ②ペアで協力して **Mapping** をし、個人で紹介文を書く。
- ③書いた紹介文を **Mapping** を活用して意欲的に発表する。

(2) 授業仮説

九州の紹介文を書く場面において、**Mapping** をして、それを活用することで、まとまった文を書くことができるだろう。

(3) 本時の展開

活動の流れ	生徒の活動	教師の支援	評価・留意点
(2分) Greeting	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 質問に答える。Q and A 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 日常生活の簡単な質問をする。 答えた生徒は席に着く。(授業後ステッカーをあげる。) 	楽しい雰囲気を作る。
Main Activities (8分) Activity 1	<p>【Word order】ペア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで Word order のカードを並べ、文ができたなら黒板に張る。 全体で文の解答をする。 	<ul style="list-style-type: none"> Word order のカードを配布する。 カードをひろげ、文を並べ替えるよう指示。 黒板に貼られたカードを指しながら、生徒と一緒に文の解答をする。 S+V の語順を確認する。 	Word order のカード (各ペア1文ずつ) タイマー
(35分) Activity 2	<p>【Mapping】ペア活動 (九州を紹介しよう!!)</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明を聞く。 Mapping シートに単語を書きながら、どんどん語の関連づけを広げていく。 <p>【紹介文を書く】個人活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した Mapping シートを活用して紹介文を書く。(個人) お互いが書いた紹介文をまとめて発表の準備をする。 書いた紹介文を Mapping シートを使って発表する。  <p>写真1 Mapping をして英作文をしている生徒の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の手順の説明をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①Mapping (名所・食べ物・有名な～・イベント・その他)</p> <p>②文を書く (5文以上)</p> <p>③発表</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Mapping のポイント</p> <p>①できるだけ1つの単語から語を多くつなげていくようにしよう。</p> <p>②1つの事柄について文の内容を深めよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 机間指導をしながら必要な生徒へ支援を行う。 既習表現やその他の表現を確認させ、表現をふくらますヒントを与える。 書けないペアを励まし、ヒントを与える。 辞書の活用を促す。 発表者の支援をする。 全体で内容の確認をする。 発表者をほめる。 	<p>Mapping シートと紹介文の用紙を配布</p> <p>関心②： 観察</p> <p>表現③： Mapping シート 紹介文シート</p>
(5分) Wrap-up Consolidation	<ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返る。 Try you シート (振り返りシート) に記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の活動を振り返る。 生徒数名に、Mapping をして文を書くことはどうだったか、発表を聞いてどう思ったか等、感想を聞く。 挨拶をする。 	(授業前に Try you シートを配布)

VII 結果と考察

検証 1

語彙学習の場面において、語彙の一覧表を活用してのドリル学習と、ペアで Mapping をすることで、語彙力がつくだろう。

【手立て 1】

題材に関連する語彙の一覧表（20 語）を活用し、書き取り練習を約 5 分間（毎時）実施する。練習後にテストを行い、結果を得点記録グラフに記入する。

【結果 1】

図 5 は、書き取り練習後に行ったテストの 1 回目と 5 回目の結果である。（対象生徒 18 人）全体の平均が 5.9 点から 14.7 点へと向上した。

目標点を 16 点として実施した結果、1 回目は到達した生徒はいなかったが、5 回目は半数の生徒（9 人）が到達した。

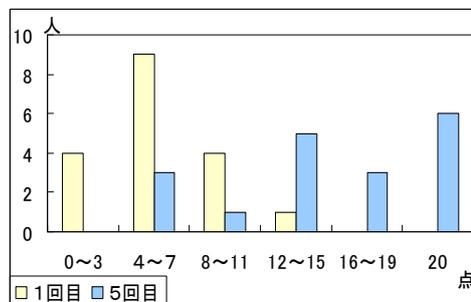


図 5 単語テストの結果

【考察 1】

平均点の向上や、生徒の半数が目標点に達したという結果から、短時間でもドリル学習を続けることは、確実に単語のスペリング力が身に付くことがわかった。このように、単元（題材）の内容に関連した語彙の一覧表を使い、繰り返し練習することで、①同じ語に繰り返し触れることができる、②個人のペースに合わせて、覚えやすい語彙から練習できる、③個人にあった目標が設定できる、などの点が効果を上げたものと推測する。さらに、得点をグラフに表すことで、一目で結果がわかり、意欲を高めることにつながったと捉える。

今後、語彙の習得練習を自主学習や家庭学習に任せるのではなく、短時間でも授業の中に位置付け、継続して取り組むことが大切であると考えます。

【手立て 2】

ペアで 10 分間、紹介する場所についての Mapping を行う。

【結果 2】

ペアで、「行きたい場所について」「那覇について」「九州について」の 3 つの題材で、Mapping を行った結果、多くの語彙が記入された。表 3 は、Mapping に記入された語彙の中から、未習の語彙や表現、または教科書(Total English 1 年～3 年)に掲載されない語彙のみを抽出し、一覧にまとめたものである。未習の語彙が 6 語、教科書では習わない語彙が 40 語使用されていた。

表 4 は、Mapping を行った後の生徒の感想である。「単語がわかりやすく覚えられた」「1 つの単語からどんどん広がる」「たくさん言葉が出てきてよかった」等の感想があった。

表 3 生徒が Mapping に記した語彙

未習の語彙（6 語）	hot（辛い） / cool（カッコイイ） / sweets（お菓子） / lose / vegetable / peace
教科書(Total English 1 年～3 年)に掲載されない語彙（40 語）	bitter / bright / cheese / monorail / team / nature / rainbow / dish / dialect / history / international / traditional / sight / dome / airport / attraction / amusement park / school trip / atomic bomb / king / ski / skiing / greasy / salty / foreigner / stag beetle / World Heritage / tourist / sightseer / The Guinness (Book of Records) / nobility / ranch / spa / hot spring / marine queen / devil / scale / Versailles Palace / look forward to～

表4 生徒の感想

ペアでMappingをしたことについての生徒の感想

- ・どんどん広げていくのが楽しい。 ・想像力UP!
- ・単語がわかりやすく覚えられた。
- ・パートナーと協力することができた。
- ・1つの単語がどんどん広がるので書きやすかった。
- ・たくさん単語が出てきてよかった。

【考察2】

日常生活の中で頻繁に使われる語や表現など、生徒にとって身近な語彙が自然な形で Mapping に使用された。これは、ペアで Mapping したことでアイデアが広がり、お互いに新しい発見をしながら、語彙を増やすことができたものと推測される。思いついた単語を自由に Mapping に増やしていくことで、わからない語彙も「なんて言うんだろう」と、自主的に辞書を活用し、楽しみながら調べられた。このように、関心を持ち、学習に取り組むことで、新しい語彙や難しい語彙も覚えやすく、語彙力を高めることにつながると考える。

また、生徒の感想からも、Mapping をすることで、語彙が増えていくことを実感していることがわかる。

以上のことから、 Mapping を活用することは語彙力を広げることに有効であるといえる。

検証2

文法事項の確認場面において、Word order（語順並べ替え）のペア活動とワークシートを工夫することで、基本的な英文の語順を覚えることができるだろう。

【手立て】

ペアでカードを並べ替えて3つの英文を完成させる（1文を約1分間）。一斉に解答を行った後、個人でワークシートで確認をする。

【結果】

図6は、事前と事後に行った並べ替えテスト（10点満点）の結果である。達成目標を7点として実施した。達成できた生徒は、1割から5割へと増加した。また、全体の平均は、事前は3.5点、事後は6.3点へと向上した。

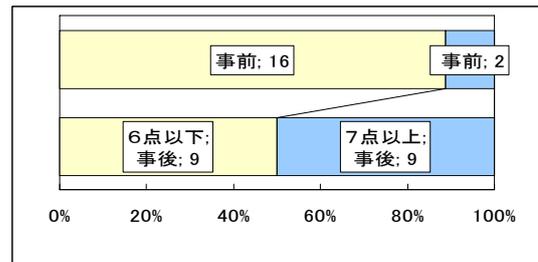


図6 語順並べ替えテストの結果

表5は、Word order についての生徒の感想を抜粋したものである。約8割の生徒が「主語と動詞の順番がわかるようになった」「順番がわかっただけですら書けるようになった」と書いている。

【考察】

Word order は、「主語+助動詞+動詞」の語順習得に、重点を置いて行った。事前のテストでは、「助動詞+動詞」の語順を、「動詞+助動詞」と、誤った解答をした生徒が半数いたが、事後のテストではその中の、約8割の生徒が正しい語順で解答できた。単語の意味をしっかりと覚えていなかったことや、語順の理解が曖昧だったことが、誤答の原因と考えられる。そこで、ペアで、カードを並べ替えることで、互いに教え合い、一つ一つの単語の意味をしっかりと捉えながら語順を考えることができたため、正しい語順がわかるようになった。また、カードを使って活動することで、指先を使い、体を動かしながら学習することができたので、覚えやすかったと捉える。

ワークシートでは、「○○が、〜〜した、・・・を、-----で。」のような英語の語順での日本語訳が、助けとなり、理解しやすかったものとする。また、カードでの活動後すぐにワークシートで確認を行ったことで、記憶に留めやすかったと思われる。

生徒の感想の「語順を理解すると文が書ける」ということから、文型をしっかりと学ぶことで思ったことを書くことができるという、文法事項の大切さを実感したことがわかる。

表5 生徒の感想

Word order をしての生徒の感想

- ・並べ替えの順番が少しわかった。
- ・主語と動詞の順番がわかるようになったから文章が書けた。
- ・主語の次に何がくるかわかった。
- ・順番がわかっただけですら書けるようになったので楽しかった。
- ・わかりやすい。

検証3

自由英作文の場面において、Mapping を活用して英作文を行うことで、情報が豊富になり、まとまった文が書きやすくなるだろう。

【手立て】

ペアで10分間 Mapping を行い、Mapping の語を活用して個人で15分間で紹介文を書く。

【結果1】

図7は生徒A・Bのペアが書いた「九州について」に関する Mapping である。九州の4県をあげ、各県に対するイメージを広げて語をつなげている。

表6は、生徒Aが、図7の①から⑧の語を活用して書いた紹介文である。(9文)

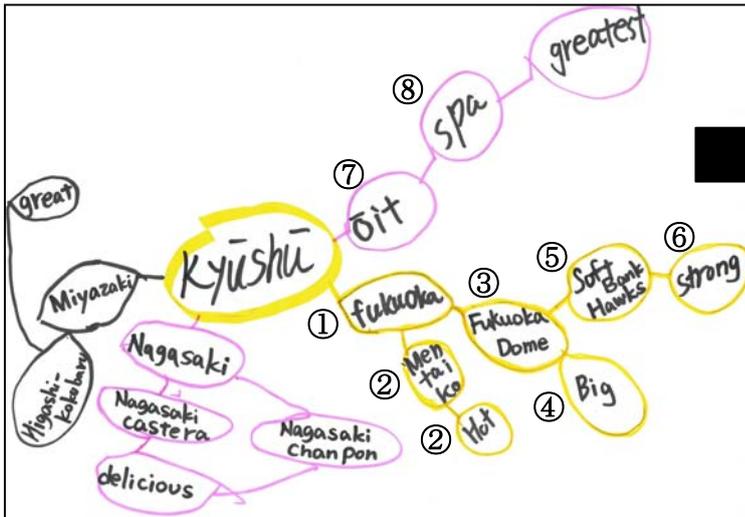


表6 生徒Aが Mapping を使って書いた紹介文

- ① I want to go to Fukuoka.
- ② Fukuoka is hot hot mentaiko.
- ③ Fukuoka dome is in Fukuoka.
- ④ Fukuoka dome is big dome.
- ⑤ I like Soft Bank Hawks.
- ⑥ It's strong team!
- ⑦ And I want to go to Oita.
- ⑧ Oita is famous for spa.
- ⑨ It's pleasant to take spa.

【考察1】

図7 生徒A・Bが書いた Mapping

表6は、図7の Mapping を基にして書いた「九州について」の紹介文である。表6の紹介文を見ると、キーワードになる”Kyushu”からスタートして、①福岡に行きたい→②明太子は辛いと続き、③～⑥では、③ドームは福岡にある→④ドームは大きい→⑤僕はホークスが好きだ→⑥強いチームだ、とドームに関して4文書き、内容を深めていることがわかる。また、図7の”Kyushu”から始まった①～⑥につながった語の1つの関連づけた連想の広がりを書き終えた後、中心となるキーワードの”Kyushu”に戻り、⑦大分にも行きたい→⑧大分は温泉で有名→⑨温泉は楽しいと別の関連づけた連想の広がりへと話を発展させている。このように、Mapping を活用して文を書くことで、語と語のつながりで関連性のある文が書け、内容が深まり、さらに他の話へ発展させることが容易になる。これまでの指導のように、教科書の例文のみを参考に英作文を行ってれば、例文と同じ3文程度にとどまったと思われるが、他の生徒の紹介文からも、6割以上の生徒が語彙の関連から内容を膨らませた文を4～10文書き、さらに中心のキーワードに戻って別の関連づけた連想の広がりへと話を発展させた。これは自己との関連で豊かな発想をもって自由に英作文ができたことが要因であると思われる。これらのことから、Mapping を活用して英作文をすることで、話を発展させながら文をたくさん書くことができる、ということがわかった。

次に、「自分の思いや考えを書いて伝える」という視点から見ると、表6の紹介文の⑤⑨には like(好き)や、pleasant(楽しい・嬉しい)のように気持ちを表す語彙が使われていて、思いを伝える表現の豊かな文になっている。他の生徒の紹介文にも fun, sad, surprise, exciting, don't like, pleasure など感情が加わった文が見られた。自己の持つ情報を引き出して英作文をしたことから、自然に自分の思いや考えを伝える文が書けたものと考えられる。

【結果 2】

表 7 は、抽出生徒 C（英語学習への意欲が低く、理解が遅い）と生徒 D（英語学習への意欲が高く、理解が速い）の、3回にわたる3つの課題に対する紹介文である。回を重ねる毎に、新しい語彙や表現を使って内容を膨らませ、文の量も増えている。また、評価点（表 2 参照）も徐々に高まった。

表 8 は、Mapping を活用して英作文を書いたことについての生徒の感想である。ほとんどの生徒が、「書きたいものがいっぱい出てくる」「英作文がスラスラ書ける」と書いている。

表 7 抽出生徒 C と D が書いた紹介文（※網掛けは未習語）

※新たに加わった表現

評 価

	1回目「行きたい場所」	2回目「那覇について」	3回目「九州について」
生徒 C	I am going to France. (1文) ~ want to There are ~ ~ enjoy ...ing It was ~	<u>I want go "Naha festival."</u> There are many souvenirs at festival. There are many events in Naha festival. <u>I enjoy seeing beautiful fireworks at Naha festival.</u> There are many games. <u>It was fun.</u> (6文)	I want to Mitsui green land. There are many attractions. There are wonderful X'mas illuminations. We can enjoy seeing parade. (4文) ~ can enjoy ...ing
未習語		fireworks	illuminations / parade
評価	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 2 + 0 + 0 = 2点	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 4 + 4 + 4 = 12点	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 2 + 4 + 4 = 10点
生徒 D	I am going to tell you about Osaka. Osaka live in many people. They are speak Osaka's dialect. Osaka's food is very delicious. The famous food is tako-yaki and okonomi-yaki. I want to go there and eat them someday. Osaka's people eat tako-yaki as dish. (7文)	I am going to tell you about Naha. There is famous for Shuri. I live in Shuri. There is Shuri castle. Many people come to Shuri castle. Because Shuri has long history. There is monorail. We can go to Omoro-machi. New museum open there. There is exhibition "Minatogawa-zin." (10文) Because	We are going to visit Kyushu for school trip. Fukuoka is famous for Chinese noodle soup and mentaiko. <u>Mentaiko is very hot. But it's delicious.</u> <u>Nagasaki is famous for an atomic bomb. It used the war. And many people died. I heard the story. I was surprised and sad. I want to peace.</u> <u>Nagasaki is famous for castella.</u> <u>But I don't like castella.</u> don't like ~ I want to eat chanpon there. Kumamoto is famous for Mt. Aso. There is nice hot spring. (15文)
未習	dialect / someday / dish	Because / history / museum exhibition	school trip / noodle soup / hot / atomic bomb used / war / died / sad / peace / hot spring
評価	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 4 + 4 + 4 = 12点	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 4 + 4 + 4 = 12点	(1)量 (2)膨らみ (3)文法 6 + 6 + 6 = 18点

【考察 2】

生徒 C の書いた紹介文を見ると、1回目は、ペアの生徒の書いた文を写す程度であったが、2回目の「那覇について」は、伝えたいメッセージを Mapping にたくさん書き出し、それらの語彙を活用して自分の力で文を書いた。自分のよく知っている那覇での楽しいことや面白いことなど、興味のある内容についての Mapping をしたことで、「那覇祭りに行きたい。花火がきれいだよ。楽しいよ。」と、自分の持っている知識や情報があふれ出し、「書きたい」という気持ちを起こさせることにつながったと捉える。「九州について」は、あまり知らなかったため、文章量は少なかったものと考えますが、修学旅行終了後は、九州に関する情報も増え、多くの文を書けるようになることが推測される。このように、Mapping を活用することで、楽しみながら文を書くことができ、量もたくさん書けた。

表 8 生徒の感想

Mapping を活用して英作文を書いた感想

- ・次から次へと書きたいものがいっぱい出てくるから文をいっぱい作ることができた。
- ・1つの単語がどんどん広がるので書きやすかった。
- ・英作文をするときは Mapping をして書いたらスラスラ書けるってことを発見しました。

生徒 D の 1 回目と 2 回目の紹介文は、内容が表面的なものにとどまっている。しかし、3 回目の「九州について」は、食べ物について、「とても辛い。でもおいしい。」「カステラが有名だが、自分はカステラは好きではない。」など具体的に触れている。また、長崎については、原爆について書いており、過去の歴史や自分の感想・願いなどを入れながら書き進めている。Mapping をすることで、持っている知識が活性化され、書きたい内容が具体的になった。「行きたい場所」、「那覇」、「九州」の 3 つの紹介文を、段階を追って見ても、文の量や未習語彙の使用量が顕著に増え、内容にも深まりが出て、自分の思いや考えを伝える、より発展した文が書けるようになった。

抽出生徒 2 人の紹介文は、評価の観点からとらえると、回を追う毎に、文の量が増し、内容に広がりが見られ、さらに、文法の間違いも少なくなつて、書く力が高まったことがわかる。

Mapping は、自分もっている情報を、語の関連づけで連想しながら書いていくので、英語の得意・不得意に関係なく、誰でも、楽しみながら取り組むことができる。また、自分の興味の対象が Mapping に記されるので、わからない単語や表現も、積極的に辞書を使って調べながら、書くことができる。Mapping をスタートするキーワードは同じでも、個々のイメージや発想は異なり、それらの語彙を活用して英作文をすると、それぞれが思い思いの文を書くことが可能になるので、生徒は個々のもつ力を無限に発揮することができるのである。このようなことから、Mapping をしてまとまった文を書くことは、表現力を高めることに有効であると考えられる。

書きたいことを表現できるようにするために、語彙の習得学習において、継続的なドリル学習や自由度の高い学習で語彙力をつけ、「主語＋動詞」の基本的な文型を定着させて文法力を身に付ける。そして、身近に感じられる内容を題材として Mapping をし、それを活用して英作文を行うことで、表現力を高めることにつながると結論付けられる。

Ⅶ 研究成果と課題

1 成果

- (1) 語彙一覧表を活用することで、個人のペースに合わせて学習ができ、またペアで楽しみながら Mapping をすることで、語彙力が身についた。
- (2) 語順並べ替えカードを用いた文型練習と、英語の語順での日本語訳を入れたワークシートでの学習で、「主語＋動詞」の語順を理解することができた。
- (3) Mapping を活用して英作文をすることで、発想が広がり、内容を膨らませながら文を書くことができ、表現力が高まった。

2 課題

- (1) 各単元において必要な語彙を精選した一覧表の作成を行いたい。
- (2) 複雑な文法事項を含む語順並べ替え学習とワークシートの作成を工夫したい。
- (3) 他の領域（聞く・読む・話す）における活動場面での Mapping の効果的な活用方法を考えたい。

《主な参考文献と引用文献》

「中学校学習指導要領 解説 ～外国語編～」	文部省	東京書籍	1999
「コミュニケーションを目指した英語の指導と評価」	文部省	開隆堂出版	1993
「コミュニケーションのための 4 技能の指導」	伊東治己 編著	教育出版	1999
「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」	望月昭彦 編著 久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司 著	大修館書店	2001
「言語活動を中心に基礎能力をつける英語指導法」	佐野正之・米山朝二・松沢伸二 共著	大修館書店	1988
『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』	田中武夫・田中知聡 著	大修館書店	2003
「ザ・マインドマップ 脳の力を強化する思考技術」	トニー・ブザン バリー・ブザン 著 神田昌典 訳	ダイヤモンド社	2005
「記憶力 発想力が驚くほど高まるマインドマップ・ノート術」	ウィリアム・リード	フォレスト出版	2005
「平成 18 年度版 中学校英語教科書における語彙調査」	財団法人中央教育研究所		2006